

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3473100760		
法人名	医療法人社団 林医院		
事業所名	グループホーム 夕霧の家		
所在地 (電話番号)	広島県呉市音戸町畑三丁目20-36 (電話) 0823-56-1202		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成21年11月28日	評価確定日	平成21年12月9日

【情報提供票より】(21 年 11 月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤 6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,500/日 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11 月 10 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	12 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.9 歳	最低	72 歳	100 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田歯科医院・二木歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「夕霧の家」では、開所時より地域に溶け込んで地域とともに歩いていくという目標のもと、入居者が楽しみながら心豊かに過ごせる雰囲気と環境作りに取り組まれている。職員全員は、日々の支援の中で一人ひとりの持てる力を見出し、取り戻し、使い続けられるようサポートしながら、してあげる介護から生きることの支援につとめられており、多くの入居者の方々が過去の経験を生かしながら役割や出番を持たれている。地域との関係作りは、母体組織や関連の事業所等の協力を得ながら継続して図られており、近隣の方が立ち寄りたり、おすそ分けをしたりする間柄が作られてきている。開設して約4年が経過し、今後の発展が大いに期待できる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、運営推進会議を活かした取り組みの推進が期待されていたが、その後管理者や職員の積極的な取り組みにより、地域包括支援センターや地域住民、家族代表の協力を得ながら、定期的に開催し、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で取り組んでおり、明らかになった課題についてはミーティング等で話し合って改善に向けて取り組んでいる。今後は、項目の考え方の指針については再確認しながら、意見の統一を図られることが望まれる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>民生委員、地域包括支援センター職員、入居者、家族等の参加のもとに開催されており、会議ではホームの活動状況についての報告やボランティアについての情報を得たり、家族から外出の要望をもらうなど、運営推進会議を活かした取り組みがある。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時や運営推進会議などを通じて、入居者の日常の様子や外出、行事参加の様子などを報告している。他には、毎月担当職員が個別に手紙で健康状態や暮らしぶりなどを報告する取り組みがある。意見や苦情については、申し送りなどにて全職員が内容を把握し、内容に応じてミーティングにて検討し対応するなどの取り組みがある。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の保育所や小学校から、行事の案内等を得て入居者と職員がともに参加をしながら、交流に努めている。また、近隣の商店に買物に出かけた際や、散歩時の挨拶を通じて、自然な形で地域交流への取り組みがある。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームが地域密着型サービスとして位置づけられた際に、入居者が家族や地域との関係性の継続を大切に支援するという趣旨の理念をつくりあげた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、理念をもとにさらに具体的な方針を検討し、日々の中でその方針に立ち返って話し合いながら、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的に買い物や散歩に出かけたり、地域の行事や活動へ出席することで、地域の人々と交流を図っている。隣接する小規模多機能型事業所や、通所介護の利用者とは、レクリエーションやお茶飲みを行ったり、近隣の保育園児や小学生、ボランティアの慰問のある時は一緒に参加し交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価にあたっては全職員で回覧し、グループホームに求められている機能を項目から理解するとともに、日々提供しているサービスの内容を振り返る機会とした。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者代表、家族代表、民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員で構成されている。入居者の状況や、日々の取り組み報告、行事案内等を話題としている。入居者は退去や入院もなく穏やかな暮らしが継続できていることもあり、定期的な開催の中では行事の報告などが主となる傾向があり、積極的な意見交換には至っていない。		入居者が地域住民の一員として地域の中での生活を継続するためには、地域住民の理解と協力が不可欠である。馴染みの関係作りや、地域に出向く手段、ホームが担える地域での役割の実践、ホームが持つ認知症介護の専門性の還元など、地域密着型サービスとしてのさらなる質の向上のために、運営推進会議のより積極的な活用を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に市の担当者が来所する等の機会はないが、母体組織や関連事業所と連携をしながら、情報収集や意見交換の機会を作りながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、担当職員から家族へ入居者の暮らしぶりを手紙で伝えており、その際に、行事案内、ホームの便りを同封している。健康状態などに変化があった場合は、必要に応じてその都度報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会時に入居者の要望や暮らし方への意向を、家族から聞き取りを行っているが、今後も、家族同士で話し合う機会や、より意見を引き出す機会づくりを検討し、家族等の意見をホームの運営に反映する取り組みを期待したい。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	平日頃から、各ユニットの入居者と職員の交流を行いながら、顔馴染みの関係作りを図っており、またやむを得ず職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で年間研修計画立案や職員の目標管理を行い、段階に応じた研修の実施・参加をしている。外部研修にも出来るだけ参加し、参加した職員は伝達研修を行い情報の共有を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所などと学習会や交流会を持つことにより、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>相談をいきなりの入居につなげるのではなく、本人、家族と十分に話し合いを重ねて事業所の利用に限らず、必要なサービスを検討している。また、入居後も、家族の面会を多くしてもらったりしながら、本人の不安を軽減できるよう家族と相談しながら支援をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者の持っている知識や経験が活かせる場面作りを考え、食事の献立を相談するなど同じ目線で介護を実施し、支えあう関係ができるよう心がけている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>思いや希望を表した本人の言葉をそのまま介護記録等に記載し、把握に努めている。ホームでの生活が長い入居者は、職員との間に馴染みの関係が出来ており、言葉に表出できなくても表情や仕草、生活歴等の情報などからくみ取るようにしている。新しく入居した入居者には細やかに関わりを持ち、意向の把握に取り組んでいる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>今までの介護計画サービスを見直していくために、職員が気付いたことを取り入れ入居者にとって必要かつ大事なことであれば、変えていく努力をしている。一人ひとりの介護計画サービスをわかりやすくまとめ、確認しやすいよう工夫している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは定期的に行っており、全体会議の中で他の職員の気づきや意見を反映しながら、計画作成担当者と共に新たな介護計画を作成している。状態の変化が生じた場合は、その都度検討して見直している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人が望むかかりつけ医の受診、馴染みの理美容室の利用支援、隣接地にある通所介護や小規模多機能型居宅介護の利用者との交流、外泊や外出など、その時々々の要望に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の要望を第一として、入居前からのかかりつけ医と家族の協力を得て受診を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームが対応しうることを見極め、対応の指針を定めており本人や家族の希望に添える終末期を送ることが出来るよう早期から医師や家族とも話し合いを繰り返している。また、日頃から協力医の指導を受け、常に状態の変化に伴う報告や連絡を密にして、職員全員で方針を共有したケアの実践に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保については職員もよく理解しており、常に人生の先輩としての声かけ、支援をするよう心掛けている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるものの、それぞれの入居者の生活リズムを尊重し、ゆったりとした環境で、本人の意向や要望を聞きながら、支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の出来ることを見つけ、それに応じて配膳や食器ふき等それぞれの出番を作るよう心掛けている。食事中にもそのことや食材、味付けなどを話題にして、食事を楽しくいただけるようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴日は決まっているが、入居者の希望に応じている。一人の入浴時間もゆったりとっており、楽しんでいただけるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や趣味を把握し、その人に合った役割を見つけ無理強いすることなく出番を多く作って、日々の張り合いがあるようにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	常日頃から、天気や入居者の希望を踏まえて、散歩や買い物に出かけている。併設のサービスに知人が利用するときには面会に行ったり、隣接する小規模多機能型居宅介護事業所へ気軽に出かけるなど、ホームの中だけで過ごすことのないよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、入居者一人ひとりの様子や外出傾向を把握して付き添うなど、鍵のかからないケアに取り組んでいる。また、併設事業所との協力体制ができており、入居者がグループホームを出た場合には他事業所の職員が知らせてくれる協力体制も出来ている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、定期的に防災訓練を実施している。地域の協力体制については、運営推進会議等を通じて協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食、水分量は毎回チェックをしている。摂取量が落ちている時には速やかに対応し、医師に相談したり、食事形態等を検討している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員全員で五感を活かしながら、入居者一人ひとりの感覚や価値観を大切に居心地よく入居者が自分なりの活動がしやすい場になるようにしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭より使い慣れたものや、家族の写真等を持参していただき、その人が大切にしていたものに囲まれ、その人らしい居心地のよい暮らしの居室作りを支援している。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 認知症対応型共同生活介護 夕霧の家

評価年月日 平成 21 年 10 月 28 日

記入年月日 平成 21 年 10 月 28 日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 氏名 岡田 芳恵

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-----------------------	---------------------------------

理念に基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域との交流を大切にしており、定期的に小学校や保育所、地域のみなさんの訪問を受けている。地域の行事に参加したり、学校行事の見学に行くなどしている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員全員、理念に沿って、日々実行している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	グル- プホ- ムのオ- プン時、地域の自治会婦人会、民生委員などを招待し、理解を得られるように努めた。運営推進会議を、定期的に行っている。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所の方から物をいただいたり、ボランティアで楽器の演奏をしていただいたりするなど立ち寄っていただけるようになっている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事や、活動などに積極的に参加するように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の奉仕活動や、行事などにも積極的に参加し、お手伝いしている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	利用者の生活環境の改善に向けて、職員一同日々努力している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域のみなさんや、ご家族に対して報告を行い、積極的に意見を聞き、サービスの向上に努めている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	担当者と定期的に連絡を取り合い、意見交換を行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	必要に応じて、学習会や話し合いを持ち、活かせるように努力している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修などあれば参加し、ミーティングなどで報告するようにしている。職員一同、細心の注意を払い、防止につとめている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	理解、納得していただけるように説明するなどして努力している。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	管理者や職員が声かけするなどして、表現しやすい環境を作っている。不満、苦情を受けた場合は、全職員に伝え、運営に反映できるようにしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ご家族が来られたときに報告したり、近況報告をお送りしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が来られたときに、お伺いしたり、言い難いことがあれば、文書で書いていただくようにもしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度、ミーティングをしており、聞く機会を作っている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	時間的な状況に応じた勤務体制を作り ローテーションを組んでいる		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>離職率が低く、利用者との関わりが持てるようになっている。</p>		
5 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員が研修などに、積極的に参加できる環境を作っている。研修後は、研修報告書を作成しミーティング等で報告している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>定期的に他の施設の行事等に参加し、ふれあいを 持つなど、取り組んでいる。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>できるだけ直接聞くようにしているが、言い難いことは、ノートに書いてもらうなどしている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>必要があれば、運営者に報告し、運営者は、定期的に施設を訪問するなど、働きやすい職場づくりを心かけている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>必要に応じて、話を聞く機会を作り、対処している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	必要に応じて、連絡を取り合うなどし、話を聞く機会を作り、受け止めるようにしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けたときに、その都度話し合う機会を作り、対応できるようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人や、ご家族と話し合う機会を作り、ご要望を見極めながら対応している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と本人が常に接しており、人生経験をお聞きしたりできることをお手伝いしていただいている		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	定期的に連絡を取り合い、利用者のことを報告し、支え合う関係を作っている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご家族が来られた際に、一緒にお茶をお飲みいただいたり、外出をしていただくなどよりよい関係が保たれるように、支援している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>地域の行事等に、参加していただくなどしている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>仲の良い利用者同士の席を近くにするなど関わりあいを持てるようにしている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>同じ系列の施設サ - ビスの、ご利用をお勧めしている。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> </div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>ご本人に関わる資料等を検討しながら、支援を工夫している。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>介護計画等を活用させていただき、情報の把握に努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>利用者一人ひとりの、情報の把握に努め、支援している</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族が来られたときに、ご相談や、ご意見をお伺いする機会を作っている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の見直しは、定期的に行っている。ご家族が来られたときにご覧いただき、ご意見があれば、お伺いしている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	その都度、記録しており、活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	施設のケアに固執することなく、実情や状況を判断し他のサービスへの変更も、柔軟に行っている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者の状態に応じて、地域のみなさんと、連携を取りながら支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて、関係者のみなさんと、連携を取りながら支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	連絡を取り合い、連携を取っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	ご本人や、ご家族の希望する医療機関で受診していただいている。医師の回診が、週に2回ある。連携の医療機関の受診も行っている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	理事長である、林医師の、指示、助言をいただいている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	いつでも相談できるようにしており、支援している。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院された場合は、随時、連絡を取り合っている。 医師間の連携もある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時に、ご本人、ご家族、主治医により、終末期における対応を話し合い、明確にしている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>ご本人の状態を見極めたうえ、主治医と相談し、主治医とともに、よりよい支援ができるように取り組んでいる。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>状態に応じて、ご家族や、担当者に相談しながら、対応している。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>職員一同、利用者に対して、敬意を払い、接するようにしている。個人記録も、十分に注意して取り扱うように徹底している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員は、利用者にご希望を言っていただけるように、日常的に取り組んでいる。また、ご本人に決めていただくようにしている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的に、声かけは行っているが、利用者ご本人のペースを大切にしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	髪型、服装、化粧品等、お好みに合わせて支援している。お馴染みの美容院等があれば、ご家族と共に行っていたい。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員も、利用者と同じ食事を食べており、利用者一人ひとりにできる範囲内で、準備や、後片付けをしていただいている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご家族に、ご持参していただいたり、外出できる利用者は、買い物に行っていたい。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者一人ひとりに合わせた対応を心がけている。できるところまでは、見守り、できないところは、さりげなくカバーしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的に、利用者本人の希望のとおりで入浴している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	居室で休まれたり、フロアの長椅子で休まれたりと一人ひとりの特徴を把握して、支援している。今まで薬に頼っていた利用者も、一日の運動量を増やすなどして極力服用せずに、眠れるように支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりに、合わせた対応を心がけている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者個々の、力量を判断しながら、対応している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物は、近所の商店を利用しているが、ご希望があれば、同行している。車で同行して、離れた地域に買い物に行く場合もある。また、周辺に散歩に行けるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	季節に応じて、お花見、花火大会、紅葉を観に行くなどできる限りの支援をしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	暑中見舞い、年賀状等、書いていただくように促すことや、電話の利用がある場合は、必要に応じて介助するなど、支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族、知人、友人等、いつでも気軽に来ていただいている。ご希望があれば、一緒に食事をしていただけるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員が認識し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者の、状態を把握し、鍵をかけないように工夫している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は、常に確認できる場所に位置し、観察できるようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物等は、利用者の手の届かない場所に保管している。 薬品は、専用の保管場所があり、常に施錠している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒記録等を活用しながら、再発防止に取り組んでいる職員一同、日頃から細心の注意を払っている。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	理事長、林医師の指示、指導により、職員も都度対応ができるように、日々学習している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>定期的に、避難訓練等を実施し、連絡体制や、避難路、避難の手順等を確認している。地域のみなさんと交流するなどし、協力を得られるようにしている。</p>		
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>	<p>ご家族が来られたときに、話し合いをしている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>職員一同、細心の注意を払っている。申し送り等で報告し、情報を共有している。</p>		
74	<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬品の知識の習得は、看護師を交えてのミーティング等で行っている。服薬は、医師の指示の通りに行っている</p>		
75	<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>	<p>状態を把握し、運動（散歩等）をしたり、食事に配慮するなどして、対応している。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>うがい薬を使用しての、うがいの支援や、毎日の歯磨き義歯の洗浄等を日常的に行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事のカロリー - 計算、摂取量を記録し、状態を把握し支援している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	毎日、バイタルチェックをしている。有熱者は、一日三回検温し、医師に報告し、指示を受けている。必要であれば、往診を依頼する。また、定期的に医師の回診があり、重症感染者は、入院設備のある医療機関に移す。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具は、常に消毒をしている。食材は、冷蔵庫に保管し、万全を期している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	白と、ピンクの建物で、入りやすく、親しみやすい表札もかけている。利用者と共に、草花を季節ごとに植え替える工夫を心がけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明類は、落ち着いた雰囲気が出せるように、配慮している。テレビの音量調節は、頻繁に行っている。職員間の会話は、落ち着いたトーンで行うように、心がけている。毎月、手作りのカレンダー・や絵を掲示している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で休む空間と、自由に団欒できるフロアを設けている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や、新しく家具を購入したり、使いやすい物を、利用者やご家族に相談しながら、場所作りをしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	全室に空調を完備している。換気も、状況に応じて行っている。(室温は、季節に応じてフロア、全室統一にする等)		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	要所の手すり、浴室の滑り止め、階段は、広く滑り止めをつける等、安全で快適に過ごせるように、工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者の、個々の力を発揮できるように、寄り添い見守っている。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダを広く設けており、花を植えて季節を感じてもらい、日光浴や談話等を楽しんでもらえるようにしている		